

西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部

# 地域活動論叢

2022 年度



大学公式キャラクター  
かなめ  
要ちゃん

とどけ！ぬくもり  
要（かなめ）から

# 目 次

巻頭言 地域連携室室長 荒木 剛	1
西南女学院大学と西南女学院大学短期大学部の地域貢献活動の概要	4

## 《子ども・子育て支援と学校教育》

1. 一緒にあそぼう	5
2. いぼりの森の《みんな、だぁ〜い好き!!》“みんな♪フレアイ隊”	7
3. 音楽 DE あそぼう	10
4. だいすきにつぼん	13
5. World Foods! ～どの国の食べ物かな?～	16

## 《食と健康》

6. 「食と健康」に関する地域連携公開講座	19
7. むかだきを若い世代へ	22

## 《観光と地域活性化》

8. SNS 情報発信活動を用いた上海・仁川学生との交流	25
9. 北九州市のインバウンド観光振興活動	28
10. 小倉北区魅力向上事業	31
11. MOTENA-Sea プロジェクト	34
12. 行橋市看板商品開発事業	37

## 2022 年度地域連携室の取り組み

1. 後期北九州市民カレッジ	42
2. 中高生のための絵本講座	45
3. 卒業生パネルの展示	47
4. フードドライブキャンペーン	48
5. 広報活動	49

現在に繋がる力を身につけた地域活動～卒業生からの寄稿文～	52
------------------------------	----

マスメディアに見る 地域連携室 2022 年度の歩み ～地域連携室の足跡～	53
---------------------------------------	----

## 巻 頭 言

地域連携室室長 荒木剛

ここに『2022 度 地域活動論叢』を刊行できましたことを学生や教職員の皆様をはじめ、大学の地域貢献活動に関わるすべての方々に感謝申し上げます。

さて、2022 年度も新型コロナウイルス感染症により、地域貢献活動はさまざまな制限を受けました（この原稿を執筆している現在、第 8 波の真っ只中となっています。ちなみに昨年度は第 6 波の最中でした）。一方で、コロナ禍もすでに 4 年目に入り、感染対策を講じながらの地域貢献活動も日常のこととなり、ある程度のノウハウも蓄積された感があります。その意味では、社会と同様に地域貢献活動の With コロナへの転換が図られた 1 年であったと言って良いかもしれません。

そのような中、本年度は、行政や企業とコラボレーションした地域貢献活動が活発に行われました。その 1 つに、商船三井テクノトレード株式会社との連携プロジェクトがあります。これは、人文学部の学生が水素燃料電池船（2024 年 4 月、関門エリアにて就航予定）の活用プログラムの企画・開発に取り組むもので、2021 年 9 月に締結された「教育事業に関する包括連携協定」に基づく活動となっております。詳細につきましては、本編をご覧頂ければと思いますが、学生にとっては、自分たちの出したアイデアが、実際に船内サービスとして具現化するかもしれないという非常に魅力的なものであり、また、貴重な学びの機会になると思います。今後は、保健福祉学部や短期大学部の学生も参加する予定であり、さらに幅広い活動へと展開していくことが期待されます。もちろん、この他にもさまざまな地域貢献活動の取り組みが行われ、どれも素晴らしい内容となっております。是非、そちらの報告もご一読ください。

2016 年 8 月に開設された地域連携室も 7 年目を迎えました。現在、大学・短期大学部の中期計画（『要』Transformation（2022-2026））の柱の 1 つに「社会との連携の強化」が掲げられ、地域貢献活動のさらなる充実が求められております。そして先にも述べましたように、社会は With コロナへと転換しております。学生、教職員、関係者の皆様方が安心・安全のもとで地域貢献活動に取り組むことができ、地域とともに歩む大学・短期大学部として、社会の期待に応えられるよう地域連携室としての役割をしっかりと果たしていきたいと考えております。

引き続き、皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。







## 西南女学院大学と西南女学院大学短期大学部の地域貢献活動（概要）

本学では感恩奉仕の建学の精神にもとづき、女性らしい豊かな人間力と専門的な実践力で社会に貢献する人材育成を目指しています。座学に加え、学生たちが自ら学外に出向き、さまざまな課題に向き合い、できることをみつけていくことを大切にして参りました。これまでの学生参加の地域貢献活動を活動形態別にみますと次の6つに分けることができます。

- ① 市民公開講座：最新の知識・技術、生活の知恵などを提供する講義や演習
- ② 体験・アクティビティ：あそぶ、たべる、学ぶ、語り合うなどの体験型の企画
- ③ ピアサポートグループ活動：介護や子育ての悩みなどを参加者同士で受けとめ支え合うグループ活動
- ④ 提案とアクション：若い女性の視点を取り入れた商品開発や地域活性化への提案とアクション
- ⑤ 海外における貢献活動：アジア地域での地域貢献活動
- ⑥ そのほか

また、課題別にみると6つに分けることができます。

- ① 健康・食・運動
- ② 福祉・介護
- ③ 子ども・子育て
- ④ 学校教育
- ⑤ 産業・観光
- ⑥ 地域づくり

2022年の地域貢献活動は12件でした。『地域活動論叢2022』では、課題別に＜子ども・子育て支援と学校教育＞及び＜食と健康＞＜観光と地域活性化＞に分類し（下表参照）、それぞれの1年間の成果と課題をまとめました。本書は、この1年間の学生たちと教職員が地域の皆様とともに歩んだ道のりをコンパクトにまとめたものであります。これらが地域の皆様と私たちにとって共通の宝物となりますことを祈念しております。

表 2022年度に本学で実施された地域貢献活動

<p>&lt;子ども・子育て支援と学校教育&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 一緒にあそぼう [障害のある子どもとそのきょうだい]</li><li>・ いぼりの森の《みんな、だぁ〜い好き!!》“みんな♪フレアイ隊” [地域の未就園児]</li><li>・ 音楽DE あそぼう [6歳未満の子ども]</li><li>・ だいすきにつぼん [小学生]</li><li>・ World Foods! ~どの国の食べ物かな?~ [幼児・小学生]</li></ul> <p>&lt;食と健康&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 「食と健康」に関する地域連携公開講座 [高校生・保護者・教員]</li><li>・ ぬかだきを若い世代へ [市民]</li></ul> <p>&lt;観光と地域活性化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ SNS情報発信活動を用いた上海・仁川学生との交流 [外国人観光客]</li><li>・ 北九州市のインバウンド観光振興活動 [市民・観光客]</li><li>・ 小倉北区魅力向上事業 [北九州市内および市街近隣エリアの市民]</li><li>・ MOTENA-Sea プロジェクト [市民、観光客]</li><li>・ 行橋市看板商品開発事業 [市民・観光客]</li></ul>
--

注) [ ] 内は協働のパートナーあるいは支援の対象です。

# 1. 企画名： 一緒にあそぼう

2. 団体名： ちゃれんじ

3. 企画代表者 西南女学院大学保健福祉学部福祉学科 山本 佳代子

## 4. 概要

### (1) 目的

障害のある子どもときょうだい、その家族を対象とし余暇活動支援を行う。さまざまなレクリエーション活動を通し、子どもたちが楽しく体を動かしながら多様な動きを身につけること、仲間と体験を共有し、一緒に遊ぶ楽しさを知ることが目的とする。またスタッフとして参加する学生は、子どもたちとの関わりを通し、障害についての理解を深めること、場面に応じた声かけや関わり方、プログラムの企画や実践の方法について学ぶことを目的とする。

①対象： 障害のある子どもときょうだい、その家族

②内容： レクリエーション活動・水泳活動・食育活動・野外活動など

③活動場所： 西南女学院大学・障害者スポーツセンター（アレアス）・足立青少年の家  
グリーンパーク

### (2) 実施日時・場所・内容・参加人数

日程	時間	場所	内容	参加者	スタッフ
4月27日	12:10-12:00	校内 実習指導室	学年リーダーmeeting		6名
4月28日	10:40-12:00	校内 第二体育館	スタッフ meeting		25名
4月29日	10:00-12:00	校内 第二体育館	きょうだい編 小文字山登山→雨天のため レクリエーションに変更	5名	12名
5月19日	10:40-12:00	校内 第二体育館	スタッフ交流会		24名
8月19日	10:00-12:00	校内 6205 教室	夏休み アートイベント	13名 (6家族)	8名 講師2名
10月12日	10:40-12:00	校内 6204 教室	スタッフ meeting (オンライン使用)		29名
11月5日	14:30-16:00	グリーンパーク	サツマイモの収穫	26名 (11家族)	10名 山田ゼミ6名
11月12日	13:00-15:00	校内 大学調理室	親子クッキング	18名 (8家族)	12名 山田ゼミ6名
11月29日 12月6日他	12:10-13:00		クリスマス会 リーダーmeeting		6名
12月16日	16:00-18:00	校内 521 教室	クリスマス会	16名 (7家族)	26名

### (3) インシデントの有無

なし

### 5. 評価及び企画の妥当性と今後の課題

例年実施している水泳活動は、プール工事のため今年度も中止となった。しかし今年度は、コロナ感染症対策を行いながら、さまざまな活動を実施することができ、参加者親子、学生スタッフ共に楽しい時間を共有することができた。また今年度は、はじめて「きょうだい」のみを対象とした活動も実施し、きょうだい支援をスタートさせることができた。新型コロナウイルス感染症流行後、例年通りの活動ができていないことで、低学年の学生にとっては慣れない課外活動となるため、学生の意識統一やモチベーション確保を目的に、子どもが参加する活動前にスタッフのみでの Meeting などを複数企画した。

新規参加者の獲得と広報を目的として、今年度よりインスタグラムを開設した。今後、インスタグラムなどを利用し、参加者や社会に向け情報発信を行うと共に、ボランティアスタッフの募集も行っていきたい。

### 6. 決算

西南女学院大学地域貢献活動助成金

### 7. 謝辞

食育活動と一緒に取り組んでいただいた若松グリーンパークの皆さま、栄養学科の山田志麻先生とゼミ生の皆さま、また、今年度よりメンバーに加わり、ご協力いただいている看護学科の樋口由貴子先生に御礼申し上げます。

### 8. 写真資料





1. 企画名 いぼりの森《みんな、だぁ～い好き！！》

# みんな♪フレイアイ隊

2. 主催者名 北九州市立井堀市民センター

3. 企画代表者 短期大学部保育科 藤田稔子

4. 概要

(1) 活動の概要と目的

毎年、校区内にある北九州市立井堀市民センターで月1回、0・1・2歳のお子さんと保護者を対象に子育て支援活動を月に1回のペースで続け、今年で7年目になります。

開催にあたっては、本学 COVID-19 対策班に特に乳児を対象とした感染症対策の詳細を記述し、承認を得て実施しました。

今年度も、可能な限り、他家族との身体的接触がないような内容とし企画運営に努めました。また、参加者は、事前にセンターに申し込みされた親子に限定し、人数が多くなるようセンターが配慮していただきました。

(2) 内容

場所：北九州市立井堀市民センター 多目的ホール

時間：9：20-10：00

開催日	テーマ	内容	参加者数
4月8日	お花見	《製作あそび》 お花紙をクシャクシャとして、小さなイーゼルに貼り付けます。玄關先に飾れるオブジェのできあがり	児 7名 親 5名
5月13日	紫陽花祭り	《製作あそび・ボディーパーペイト》 カタツムリの背中をグルグル、マジックでお絵描き。最後は、時計の針を付けて、カタツムリの時計の完成 色水のスタンプを大きな模造紙でベタベタ。最後は手や足に色水を付けちゃいました。紫陽花の形に切って、梅雨の壁面の完成	児 4名 親 5名
7月8日	うちわ作り	《製作あそび》 うちわの骨にカラフルなセロファンをお母さんと一緒に貼ります。学生達が準備していた黒の切り抜きをかぶせると、素敵のうちわの完成。光にかざしてニコニコ	児 7名 親 5名
10月25日	ハロウィン	《収穫祭り、ごっこあそび》 センター内に旬のお野菜が実りました。みんなで収穫して、村人に届けます。最後は、魔女と一緒に1軒1軒回って「頂戴！（トリック or トリート!）」お菓子をもらいに行きます	児 6名 親 7名
11月15日	秋の運動会	《運動あそび》 木にたくさん的林檎が実りました。よーいどん♪で林檎を取って、くまさん達に配達します	児 5名 親 4名
12月20日	クリスマス会	《製作あそび》 小さなクリスマスツリーを作りました。最後は、大きなツリーにオーナメントを飾り付けました	児 7名 親 5名
1月17日	節分	《運動あそび、ごっこあそび》 泣いている鬼さんのために、おたふくさんの指令をクリアして、鬼さんにパンツを届けます	児 2名 親 3名

## 5. 振り返り

地域子ども達がのびのびと遊べる環境、親たちが孤立せず「おとな」の他者と交流が持てる環境、等地域の親子のためだけでなく、学生達の実践的学びの場として、非常に有難い機会をいただいています。センターの皆さま、参加してくれたお母さん達が暖かく見守り、皆さんが毎回楽しんでくださる姿が学生達の学びに直結しています。毎回、自分達で「振り返り」をし、時に褒め合い、時に反省し…。回を追うごとに成長していく様子を嬉しく、また、頼もしく感じていました。以下、2022年度ねんこぜみ4名の1年を振り返り…の抜粋を転記いたします。

### ① 保護者との貴重な触れ合いの場

★実習では子どもと関わるのが主で保護者の方とお話する事は無かったのですが、井堀の活動では保護者の方とお話する機会があった事が実習とは違う経験だったと思います。

★実習とは違い保護者の方と関わる機会が多かったため、より保育職のリアルを感じることができた点が良かったと思います！

### ② 地域の子育て支援活動の実際を体験

★ふれあい隊のような活動が地域の市民センターで行われているということを知りませんでしたので、他にも知らない保護者さんやこれから保護者の立場になる方々はたくさんいると思うから、このような活動があるということを知りたいと思いました！

### ③ 未満児さんとの関わり

★保育所実習でしか未満児さんに関わる事が無く、実習全日未満児クラスに入れるわけではないです。以上児さんに比べたら言葉のキャッチボールが難しい未満児クラスで難しいなと感じることが多かったのですが、ふれあい隊で未満児さんと実習以外に関わることができてすごく嬉しかったです！

★保育所実習で未満児に関わることができなかったので、とてもいい勉強と経験をさせていただくことができました！

### ④ 育児相談としての機能

★お母さんの子育ての悩みなどを実際直接聞いたりして先生やみんなと悩んで話し合う中で保育職就いたら子育ての悩みをかかえた保護者がいて、このような話し合いをするのかと実感することができました。

特に就職前なので、とても勉強になることが多かったです！

多くの学びを得ることができたのでほんとにこのような活動を多く知って欲しい！です

## 6. 活動経費

井堀市民センターと本学地域連携室からの助成金等で材料費を支出いただきました。

## 7. 今後の課題

井堀市民センターとの良好な関係性で、様々な面で安心して活動させていただいております。北九州市からは、井堀市民センターだけでなくいくつかの市民センターとのコラボ企画はできないものか、とお声掛けをいただいています。7年間の実績を基に、更なる展開ができれば、と願っています。

## 8. お礼

いつも活動を支えてくださる、井堀市民センター館長の内藤さま、井上さまはじめ皆さまには心から感謝申し上げます。また、毎回楽しみに、参加して下さるお母さま、子ども達、ありがとうございます！！そして、いつも私たちの活動を応援して下さる、北九州市市民文化スポーツ局の方々にも感謝を♡

【活動の様子】10月開催「ハロウィン」の様子



にんじん  
を見つけ  
たよ★

わたくし、  
魔女です♡



研究室の廊下  
天井スレスレ



魔女さんと  
作戦会議！？

みんなもマントと  
帽子をかぶって、  
魔女の見習いさん



他の月の様子は  
報告会で♡  
お楽しみに～

11月



12月



1月

# 音楽 DE あそぼう

## 1. 企画名

2. 主催者名 こども音楽療育実習

3. 企画代表者 短期大学部保育科 末成妙子

## 4. 概要

### (1) 活動の概要と経緯

保育科では、保育士資格・幼稚園教諭 2 種免許以外に複数の認定資格が取得できるようカリキュラムが準備されています。西南女学院の保育は歴史が長く、特に音楽には地域の保育現場から高い評価を受けています。音楽に強い本学は、近隣の養成校との差別化のためにも、他校ではできない“質の高い「音楽」と「療育」のスキル”をあわせ持った保育職を育成するために「こども音楽療育士」を取得できるようにしています。この認定資格を取得する上で必修となる科目のうち「こども音楽療育実習」は、実際に音楽を用いた子ども達との触れ合いを実習として位置付けています。

過去に地域貢献活動として地域住民対象の演奏会「小さな森の音楽会」や市内の保育園・幼稚園を遠隔会議システム Zoom で繋ぎ LIVE で音楽を用いた「音楽会」を開催する活動をしてきました。コロナ禍に入り、以前のように受講生のそれぞれのスキルを最大限活かしていた管楽器の活用の断念等、制約が多い中3年間試行錯誤して取り組んでまいりました。今年度は、北九州市の施設の制約が緩和され、本学 COVID-19 対策班のご助言のもと、学外で開催することができるまでに至りました。

### (2) 目的

- ・発達段階、保育環境（保育園や幼稚園に通っている、通っていない）等に応じた、個々にあった自由な参加ができ、親子と学生達の触れ合いの中で楽しめること
- ・発達途上にある子どもや障害を持った子どもへの「療育」に特化した音楽活動を学んでいる学生が企画実践する公演であるため、「音楽」をツールとした身体と脳への刺激につながります

### (3) 実施詳細

日 時：2023 年 1 月 14 日（土） 10：30～11：00

会 場：ウェル戸畑 多目的ホール（北九州市戸畑区汐井町 1 番 6 号）

参加者：保育科 2 年「こども音楽療育実習」受講生 13 名

ボランティア 保育科 2 年 1 名、保育科 1 年 2 名

子ども 12 名、おとな 14 名（応募は、子ども 14 名でした）

### (4) プログラム(具体的内容)

#### ①「おみせやさん」

受講生達が、フェルト等で「お寿司」「ケーキ」「ジュース」等の商品を沢山手作りし、歌いながらお店屋さんが開店。参加者の子ども達は、受付で受け取ったお財布とバッグを持ってお店にお買い物。

## ②「サンドイッチを作ろう」

野菜屋さん等で仕入れた食材を、子ども達と一緒に「大きくなる」魔法をかけました。受講生達と子ども達と歌いながら、協力して大きなサンドイッチを作りました。

## ③「トトロの森でピクニック」

みんなで作ったサンドイッチを持って、大トトロの所まで、電車に乗って歌いながらお出かけします。大トトロは、大喜び。トトロの森にある楽器で、お母さま達も一緒にみんなで大合奏しました。

## 5. 振り返り

### ① 久々の学外会場での実施

コロナ感染者の動向から、開催できるか直前まで不安に思いながら準備を進めてきました。会場の下見等ホール担当者の細やかな配慮をいただき、周りの方々の支援によって開催できました。また、感染対策は万全にし、受講生達の開催前・開催後の健康管理チェックや参加者の検温や健康チェック、会場でも徹底した消毒等、感染者を出さないことを重点目標にしました。また、ウェル戸畑という好立地により、遠方からの参加もありました。

### ② 3公演をこなした受講生達

「こども音楽療育実習」は、保育科2年後期15コマの科目です。コロナ禍に入り、始めた「Zoomで保育園と繋ぐ“音楽会”」は、参加園から熱望され今年度も開催するはこびとなりました。その結果、受講生達は、この15コマで、「LIVE公演（Zoomで繋ぐ音楽会）」2公演と本公演の合計3公演をこなすことになりました。3公演とも内容が異なり、課外も利用しての準備となりましたが、回を追うごとに、「発想力」「企画力」「準備の手際」「チームワーク」「表現力」「子どもや保護者への臨機応変な対応」等、様々なスキルが向上しました。

### ③ ホームページ開設

今回は、感染症対策の観点からも「事前申し込み制」をとりました。そのため、ホームページを開設し、そのホームページから申し込みができるようにしました。ホームページとチラシは、受講生達が試行錯誤して作成しました。

## 6. 活動経費

会場費、消耗品費等、地域連携室助成金で支出させていただきました。

## 7. お礼

参加してくださいました皆さまに心より感謝いたします。また、開催にあたり、COVID-19対策班の皆さまには、ご検討いただき感謝しております。偶然にも広報の遅れから参加者が当初の予定より少ない人数になりましたが、十分なディスタンスを取りながら実施することができたことは何よりのことと安堵しております。そして、一番頑張った受講生13名、そしてお手伝いしてくれた3名の学生さん達に心からの「ありがとう」を送ります。

【添付資料】

真剣に選び、お財布を持ってお買い物。  
シユースは飲んでいました！



「お店屋さん」は、お寿司・ケーキ・シユース・八百屋

サンドイッチを作って電車で出発



トトロの森で  
楽器を見つけます



最後はみんなで大合奏  
今日は、お母さまだけでなく、お父さまやおばあさまと一緒にあそびに来てくれました



ホームページです  
ご覧くださいませ♡

<https://fujita822.wixsite.com/my-site>

1. 企画名 **だいすき につぼん**  
子どもたちに伝えたい「食」と「あそび」と「ことば」
2. 主催者名 『だいすき につぼん』実行委員会
3. 企画代表者 西南女学院大学保健福祉学部 栄養学科 青木るみ子  
西南女学院大学短期大学部 保育科 藤田稔子

#### 4. 概要

##### (1) 活動の経緯

本活動は、2014年度から継続している小学生向けの「日本文化」に特化した活動です。プログラムは大きく3つ「食（食育）」「あそび」「ことば」を柱に各回テーマに沿って関連しながら参加者である児童が体験しながら楽しく学べるよう構成しています。

今年度は、2回開催予定で準備を進めていましたが、第1回開催予定直前に、北九州市内の小中学校の相次ぐ学年閉鎖や本学学生の新型コロナウイルス感染症の感染増加に伴い、開催中止を決断いたしました。参加申し込み者からは、「ここ数年『祭り』を体験できていなかったもので、楽しみにしていたのに非常に残念である」というメッセージを多く寄せられました。そこで、実行委員会では協議した結果、第2回目に第1回目の内容を盛り込んだプログラムを実施することになりました。

##### (2) 活動の詳細

2014年の本活動開始時より変わらず、参加者である地域の小学生が『真の国際人』として自国を熟知し、誇れるようになることを目標と掲げています。そのためのきっかけとなり得るために本プログラムは以下の目標を持って構成しています。

- ①日本の伝統的食文化「和食」の食材、調理、行事食等の“料理”そのものから、込められた願いや日本の気候・土地に即した食文化まで学べる
- ②日本の「伝承あそび」を実際に経験し、日本の風土から生まれる技術等を体験する
- ③日本の美しい四季から生まれた「ことば」、国字等に興味をもつ
- ④親子で参加することで、家庭においても話題にできる

##### (3) 内容および参加人数

開催日：2022年11月3日（祝・木） 10：30-14：30

場 所：西南女学院大学2号館 211実習室、談話室

西南女学院大学第1体育館前中庭

テーマ：食欲の秋・芸術の秋

内 容：・日本画の画料を使った掛け軸作り

・旬の食材を用いたお昼ご飯を作って味わいましょう

・『秋祭り』 色々な屋台で楽しみましょう

参加者：児童 22名、保護者 11名

学生スタッフ：栄養学科 8名、福祉学科 5名

## 5. 評価

### ① 「だいすきにつぼん」ホームページの活用

参加申し込みや連絡事項等をホームページで一括しておこなうようになり、過去の参加者の皆さまも定期的にホームページを見てくれるようになっていました。また、ホームページの機能を用いた申し込みの集計ができ、事務処理の負担もかなり軽減されました。

### ② 感染症対策を第一とした企画と実施

本来ならば、調理室内で調理を学生達と共にすることを“ウリ”にしていた『クッキング』ですが、コロナ禍に入り、調理室外でできる内容にシフトチェンジし、“衛生的”“簡便”“安全”な内容を目指しました。また、『あそび』も、できる限り“密”を避けるため、作品作りなどの個人作業で楽しめる内容に替えました。参加者の皆さまは、楽しんでくれ、満足感を持って終えることができましたが、今までの内容を知っている者としては、コロナ流行前に戻すことができず、残念な想いを残しました。

結果としては、でき得限りの様々な対策を施し、感染者を出すことなく終了できたことは、学生スタッフの努力の賜物として非常に評価しています。

## 6. 活動経費

参加費 ￥500

本学地域連携室より活動助成を受け実施しました。

(材料費、食材費、保険料等)

## 7. 御礼

2014年度より9年間、充実した活動ができましたことに、感謝いたしております。思い返しますと、学部学科を横断しての活動に前例がなかった中、当時の植田浩司学長・甲斐達男教授のお支えによって『だいすきにつぼん』を始動することができました。この活動を中心になって共に担っていただきました谷川弘治副学長・稲木光晴保健福祉学科長、プログラムをお手伝いいただきました杉谷修一先生、Malcom Swanson 先生、末寄雅美先生、阿南寿美子先生、脇信明先生、木村久江先生、北九州市産業経済局水産課の皆さま、農林課の皆さま、漁業組合の皆さま、お蕎麦屋さん…その他多数の方々のご尽力あつてのことと改めまして感慨に浸っているところです。皆さまに深くお礼申し上げます。

この『だいすきにつぼん』は、実質口コミだけで広まったと言っても過言ではありません。毎回、参加の子ども達だけでなくご家族の皆さまからも嬉しいコメントをいただき、それを励みに次へと繋いでまいりました。今までご参加くださいました全ての子ども達、ご家族の皆様に感謝申し上げます。

そして、何より、この活動を脈々と受け継いでくれた学生スタッフの皆さま！！何度「ありがとう」と申しても言い尽くせません。『だいすきにつぼん』が大切にしてきた想いは、学生スタッフが作り上げてきたものです。楽しい時間をありがとう。そして、たくさんの出会いをありがとう。この報告書をもって、今までの全ての方々への感謝の気持ちをお伝えします。

9年間、ありがとうございました！！

以上



【添付写真】

『だいすきにつぼん』ホームページ <https://daisukinippon.wixsite.com/my-site-1> (2023年3月31日で閉鎖します)



日本画の画料を使った掛け軸作り



旬の食材を用いたお昼ご飯を作って味わいましょう



『秋祭り』 色々な屋台で楽しみましょう



感謝

# 1. 企画名 World foods!～どこの国の食べ物かな？

2. 企画代表者 人文学部英語学科 太田かおり

3. 活動学生 英語学科3年太田ゼミ(10名) 稲吉那奈・岩佐遥・上村明日香・梶原優羽  
・川口夏実・小金萌夏・児玉佳奈子・宮本楓・安武柚葉・山口萌果

## 4. 活動内容

(1)活動目的: 英語や英語教育に関する大学での学びを活かして地域の英会話スクールと連携することによって、未来のグローバル社会を担っていく子どもたちに寄与することを目指す。英語にまだ馴染みのない子どもたちを対象に、世界の国旗や日本および外国の食文化について英語の歌や絵カードを使って楽しく学ぶ機会を提供する。この活動をきっかけに、子どもたちが異文化への理解や関心を深め、英語で聞いたり話したりすることの楽しさを体感するとともに、世界の食文化の多様性について学び知る好機とすることを目指す。子どもたちの将来的な英語学習のモチベーション向上に貢献することを目指し、本活動を行った。

(2)対象者: Kids Duo小倉朝日ヶ丘校(英会話教室)のサマースクールに参加する児童生徒(合計33名)

(3)活動内容: Kids Duo小倉朝日ヶ丘校(英会話教室)へ学生10名が出向き、児童生徒に対して英語によるアクティビティ活動を行った。世界各国の国旗や食べ物を題材として取扱い、音声による話す、聞く言語活動を行った。

(4)実施日時: 2022年8月22日(月)～2022年8月23日(火)の2日間(9:00～12:30)

(5)事前準備: ゼミにて活動内容を企画・立案し、Kids Duoへ提案を行い、実施を決定した。約3カ月間の準備期間中は、Kids Duoへ何度も出向いて活動の詳細について打ち合わせを行い、打ち合わせた内容を後日のゼミにて全員に情報共有し、検討を重ねながら準備・練習を行った。チームに分かれて教材・教具、ネームカードや掲示物などを準備した。また、当日の英語によるシナリオを作成し、ゼミ内で模擬授業を実施し、互いに評価し合いながら修正・改善を行った。また、本番食前には実際にKids Duoの教室をお借りして先生方に指導を頂きながら本番に向けてより実践的な準備を行った。

### (6)活動当日のスケジュール

9:00 Kids Duo集合

9:15 子どもたちの体温計測と手指消毒(コロナ感染症対策)  
出席者確認、子どもたちと交流

10:00 Kids Duoの先生方による授業の補助

10:30 メインアクティビティ準備

10:50 メインアクティビティ開始

11:00 参加者による英語ネームカードの作成

11:10 世界の国旗と食べ物について学ぶ英語アクティビティ活動

11:40 英語カルタゲーム

12:00 メインアクティビティ終了

活動後の片付け

振り返りと反省、次の日の確認・準備

(7)事後活動： 活動終了直後、ゼミ生一人一人がKids Duo宛に感謝の手紙を作成し、後日色紙とともにお渡しに伺った。さらに、それぞれが振り返りを行い、活動全体を通して学んだことや気づき、課題点についてレポート作成を行った。

## 5. 活動を振り返って

大学1・2年次の2年間は世界的なコロナ感染症拡大の影響で、大学生活の多くがオンラインであったため対面による体験的活動を行うことができなかった。3年次になり、コロナを言い訳にせず感染症対策を徹底しつつ今できることを精一杯に行おうと皆で意見を出し合い、様々な企画案を話し合った。ゼミ生が同じ教室に集い、地域や社会とのつながりあるゼミ活動を計画し、実現できたことは、私たちにとって貴重な学びと成長の機会となった。

物事を一から企画し、具体的な活動内容を考え、その実現に向けて計画・準備することは想像以上に大変な作業であった。なぜなら、子どもたちの興味や関心、知識量に合わせた授業内容を考え、心をひきつける教材や小道具を工夫し準備することは、初めての経験だったこともあり容易ではなかった。例えば、英語で行う活動において使用する英単語についても、大学生は知っていても子どもたちはまだ知らない可能性があるため、子どもたちの立場に立って考え、事前に予測・想像し、できる限り簡単でわかりやすい英単語や表現を使用するよう工夫した。また、活動に子どもたちが楽しみながら参加できるよう、子どもたちにとって身近なものや知っているキャラクター等を取り入れて小道具や教具を作成するよう努めた。試行錯誤しながらではあったものの、大きな達成感と多くの学びを得ることのできる貴重な活動体験となった。

事前に何度も大学やKids Duoにて模擬授業の練習やシミュレーションを行い準備していたにもかかわらず、活動当日には練習時に予想していなかったような小さなハプニングが起こった。しかし、その場で各々がよく考えて行動し、臨機応変に対応することができたため、最後まで活動をやり遂げることができた。2日間の活動であったが、この日を迎えるための準備期間は約3カ月と長く、この間、多くの学びと成長の機会を得ることができた。仲間と協力し合い協働することによって、一人で考えるよりもさらにより良い活動へ発展させることができた。この活動を通しての気づきや学びを今後活かしていきたい。

## 6. 今後の課題

<準備>

準備期間を振り返って、今後の課題としてあげられるものは2つある。1つ目は、活動開始当初、全員で情報を共有して連携することができていなかった点である。どのような流れでどのようなゲーム活動をするか、当日までの準備のスケジュールなど、詳しく情報を共有できていなかったため、準備開始に時間がかかってしまった。決定事項があれば直後に情報共有し、連携して準備することを心がけるべきだと学んだ。以後は、LINEやメールを活用し速やかに全員で情報共有するようにした。2つ目は、限られた時間を最大限に有効活用することの大切さである。全員で日程を合わせる事が難しく、授業外で準備や練習する機会が十分取れず、個々や小グループに分かれて準備を進めた。事前にスケジュールをしっかりと立て、効率よく動くことによって全体で集まる時間をもっと確保できたものと思われる。今後はこの点にも留意して活動したい。

<当日>

活動を振り返り、今後の課題としてあげられることは2つある。1つ目は、想定していなかった状況が発生することがあるため、事前にどのような問題が起こりうるかについて前もって

予測しておくことが必要だと感じた。かるたゲームで1枚もかるたを取ることができずに泣いてしまった子どもがいた。子どもの対応の仕方など事前に起こりうることを想定して対応策を学んでおくべきだったと感じた。今後は、予想外の事態の発生についても事前にシミュレーションを行い、対応策を検討しておきたい。2つ目は、子どもたちの学習意欲を高める工夫についてである。2日目の参加者はKids Duoへ初めて通ってきた子どもたちが多かった。そのため、1日目よりも人間関係がまだ構築されていないため、盛り上がりが少なかった。笑顔でわかりやすくジェスチャーしたり、説明を繰り返したりして工夫したが、もっと楽しく授業を行うにはどうしたらよいか、今後も考えていきたい。

活動を通して、①臨機応変に対応する能力を高めること、②予想外の事態を事前に想定し、対応策を検討しておくこと、③相手の気持ちを感じ取る力をさらに磨くことが今後さらに重要であるとの結論に至った。今後の大学生活を通じて、各自がこれらを意識して努力していきたい。

## 7. 謝辞

今回の活動を行うにあたり、私たちのゼミ活動にご協力くださったKids Duo朝日ヶ丘店のスタッフの皆様と活動に参加してくださった子どもたちに心より感謝申し上げます。また、準備から当日を迎えるまで、共に協力し合った太田ゼミの皆さん、今回の活動をやり遂げることができたのも、互いに活発に意見を交わし、協働できたおかげです。仲間の存在や支え合うことの大切さ、チーム内における情報共有の重要性に気付くことができました。また、活動を温かく見守り、主体的に考え行動することやチームで協力し合うことの重要性について体験的に学ぶ貴重な機会を与えてくださった太田先生に心より感謝申し上げます。



## 1. 企画名 「食と健康」に関する西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座

2. 主催者名 西南女学院大学保健福祉学部栄養学科、九州歯科大学口腔保健学科

3. 企画代表者 西南女学院大学保健福祉学部栄養学科 坂田郁子

企画参加者 西南女学院大学保健福祉学部栄養学科 高崎智子（文責）

木村宏和、船越淳子、西村貴子、永原真奈見、石井愛子、永田純美、  
竹下諄美、矢野夏実、伊東由里子、学生 6名

九州歯科大学口腔保健学科 邵 仁浩、中道敦子、船原まどか、辻澤利行、学生 9名

## 4. 概要

### (1) 背景および目的

わが国の食をめぐる環境は大きく変化してきており、少子高齢化、世帯構造の変化や中食市場の拡大が進行し、生活習慣病の増加、若い女性のやせ志向、高齢者における低栄養などの健康課題を抱えている。口腔機能の低下については、高齢者の低栄養のみならず糖尿病や高血圧といった生活習慣病の発症や重症化にも関与することが明らかとなってきた。生活習慣病予防のためには、多職種が関与して正しい知識を提供するための栄養教育を行うことが必要となる。そこで本学および九州歯科大学は、2014年度より、「食と健康」に関する公開講座を連携して開催し、地域住民の生活習慣の改善を図ってきた。全世代を通じた食育を実施してきた中で、予防のためには若年時より知識や行動・意識付けに取り組むことがより重要であると考えた。そこで今回、特に若年層に対して啓発活動を行うとともに、将来、多職種連携チーム医療の一員として活動するべく栄養と口腔保健の専門職を目指して学ぶ学生に啓発活動の機会を提供することを目的とした。

### (2) 対象者および開催日時・開催場所

対象者：高校生・大学生および保護者、高校の教員等

開催日時：2022年10月8日（土）13：30～15：00

開催場所：西南女学院大学 8号館1階

### (3) 実施内容

講師による講演：「乳がんと生活習慣」～ 乳がんは女性が最もかかりやすいがんです

乳がんを正しく知って生活習慣を意識しましょう～

講師：西南女学院大学保健福祉学部栄養学科 教授 高崎智子（医師）

学生によるミニ講演：「全身の健康はお口から」九州歯科大学口腔保健学科 学生

体験コーナー：触診モデルによる乳房触診体験、骨密度測定、身体組成測定、食事診断

（西南女学院大学保健福祉学部栄養学科 学生）

お口の相談会

（九州歯科大学 歯科医師・歯科衛生士・管理栄養士、口腔保健学科 学生）

講演参加者：19名

## 5. 評価

### (1) アウトカム評価

がんの原因の中には、生活習慣とかわるものも多く、生活習慣に注意することである程度予防できるがんがあることがわかっている。2017年度より小・中学校、2018年度より高校においてがん教

育への取り組みが始まったが、がんが生活習慣病の一つとされていることを知らない人は多い。なかでも乳がんは女性のがん罹患数の1位、日本人女性の9人に1人が罹患する（2019年）ともいわれられており、女性にとっては特に注意を要する疾患である。今回、栄養学科教員（医師）による「乳がんと生活習慣」講演にて、乳がんの疫学、検診、遺伝性乳がん等について講じるとともに、乳がんにかかりやすい生活習慣として、過度の飲酒、喫煙、肥満、運動不足が関係すること、さらに大豆食品が発症のリスクを下げることを紹介した。栄養学科学生は大豆食品を使った食事のレシピを作成し、リーフレットとして配布した。また講演の前後で、触診モデルによる乳房触診体験、栄養学科学生による骨密度測定、身体組成測定、食事診断を実施した。

「乳がんと生活習慣」講演後には、九州歯科大学口腔保健学科の学生が、ミニ講演「全身の健康はお口から」にて、歯周病と生活習慣、健康寿命を延ばすための口腔ケア等について紹介した。講演終了後には、九州歯科大学の歯科医師・歯科衛生士教員による「お口の相談会」を実施した。

参加者アンケート調査より、参加者の年齢層は、20歳未満6名、20歳代1名、40～60歳代10名であり、高校生や親子、夫婦で参加したと思われる方も見受けられた。また主講演は乳がんについてであったが、男性にも参加していただきたい旨を案内状に記載しており、当日の参加者は女性14名、男性5名であった。講演の内容については95%の参加者が「まあまあ～大変興味があった」と回答し、「今回初めて知ったことが多い（56%）」「以前から知っていたがより理解が深まった（33%）」「今まで間違っていた理解していたことがあり、今回正確な知識を得ることができた（11%）」であった。生活習慣と関係するがんがあること、および口の中の健康状態が全身疾患と関連することについては、「今回初めて知った（各11%、16%）」「以前から知っていたがより理解が深まった（各68%）」であった。20歳未満の女性からは「学生のうちから知ることができてよかった」「今からでも予防できることを知り、リスクを上げないように意識しようと思った」等の意見をいただいた。九州歯科大学との連携開催についても、非常に勉強になったとの意見を多くいただき、好評であった。

以上の結果より、若年層に対して健康教育を行うこと、および多職種連携による啓発を行うことによって、生活習慣を改善するための動機づけとなる機会を参加者に提供することができたと考える。

## （2）プロセス評価

本学は「食と健康」の立場から、九州歯科大学は「口腔保健」の立場から、教員と学生の協働による公開講座を開講した。講演会を通して、学生たちはお互いに栄養と歯科の連携の必要性を学び、管理栄養士および歯科衛生士の職業についての実践的な知識を深めるとともに、栄養に関するチーム医療への理解を深めることができた。体験コーナーは、学生にとって地域貢献の場であり、大学で学んだ知識や技術を提供する場でもある。専門職としての意識を高め、育成するための機会を提供することにつながったと考える。

## （3）企画の妥当性と今後の課題

生活習慣病においては、一次予防が重要であり、そのためには最新の正しい情報を得ることが必要となる。アンケート調査の結果より、若年者においても、今回の公開講座で得た知識をもとに生活習慣を見直したいと考えていることがわかり、意識付けのための情報提供の場になったものと期待される。今後は、講演に食事提供を組み合わせるなど栄養学科ならではの開催案についても検討し、継続していきたい。また3年～4年次の学生参加の場としているが、土曜日は実習関連行事や

補講などが多く組まれており、両大学の教員・学生の日程を調整することがやや難しかった。早めに開講時期を検討していく必要がある。

## 6. 活動経費

西南女学院大学地域貢献活動助成金 50,000 円

## 7. 謝辞

新型コロナウイルス感染症の影響により、この2年間は公開講座を中止していましたが、今年度は学内の取り決めに従った感染対策を講じた上で、規模を縮小して開催することができました。本公開講座に参加いただいた地域住民の皆様、ならびに多大なるご協力をいただいた西南女学院大学および九州歯科大学の教職員・学生の皆様に心より感謝申し上げます。

西南女学院大学 栄養学科  
九州歯科大学 口腔保健学科 地域連携公開講座  
**『食と健康』体験教室**  
日時：2022年10月8日（土）  
13:30～15:00（受付 13:00～）  
会場：西南女学院大学 8号館1階  
参加費 無料  
先着50名  
講演：『乳がんと生活習慣』  
～乳がんは女性だけがかりやすいがんです  
乳がんを早く知って生命の危機を回避しましょう～  
講師：西南女学院大学 保健福祉学部 栄養学科教授  
高崎智子（医師）  
上記講演後に自由参加によるミニレクチャーを実施します。  
『全身の健康は口から』 九州歯科大学 口腔保健学科学生  
体験コーナー  
・骨密度測定  
・身体組成測定  
・食事診断  
・お口の相談会  
九州歯科大学 口腔保健学科  
申し込み要  
お申し込みは、お電話または、お申し込み用紙をダウンロードして、お申し込みください。  
お申し込み用紙は、お申し込み用紙ダウンロードページからダウンロードいただけます。  
お申し込み用紙は、お申し込み用紙ダウンロードページからダウンロードいただけます。  
お申し込み用紙は、お申し込み用紙ダウンロードページからダウンロードいただけます。



親子で触診体験



九州歯科大学学生によるミニ講演



九州歯科大学による「お口の相談会」



食事診断



骨密度測定

1. 企画名 **ぬか炊きを若い世代へ** (Nukadaki-project)

2. 団体名 スワンソン3年生ゼミ (通称:マルゼミ)

3. 企画代表者 人文学部 英語学科 マルコム・スワンソン

4. メンバー 英語学科3年 田鍋英里、杉町依寿美、川口愛美、森晴加、矢野沙苗、  
安田茉央、坂田愛里、山口愛 (8名)

5. 概要

(1) 活動の目的

近年は若者の伝統離れが進んでいる。小倉の郷土料理である「ぬか炊き」も例外ではない。小倉の伝統の一部である「ぬか炊き」をゼミの学生と同年代の若者に知ってもらい、興味を持ってもらうことを目的に活動した。具体的には、「ぬか炊き」を知らない若者や「ぬか炊き」に抵抗がある若者に対して、「ぬか炊き」を身近に感じることでできる新商品を開発、販売すること。

また、商品を販売して得た収益を且過市場に寄付することで、昨年二度の火災に見舞われた且過市場という小倉の伝統が詰め込まれた場所の復興にも繋がると考えた。

(2) 活動内容・活動場所・活動内容の詳細

活動内容	活動場所	活動内容の詳細
宇佐美商店とミーティング	商工貿易会館 会議室	今後の活動内容として、ぬか炊きを使った新商品を作ることが決定。
栄養士の方と試作会	Tanga Table (且過市場付近の 共用ダイニング)	栄養士の方の意見を取り入れながら、新商品の試作会を3回程度実施。
イベントの準備	Tanga Table	イベントで使う備品の用意や新商品に使う野菜の仕込みなどを行った。
イベント当日(11/19)	発酵 JAPAN	新商品や既存の商品を屋外のテント内で販売。
イベント当日(11/20)	発酵 JAPAN	新商品や既存の商品を屋外のテント内で販売。



## 6. 活動を振り返って

今回のプロジェクトは、企画立案をはじめ、広報活動や関係者各位への連絡なども全て学生が行った。ゼミ全体としても個人としても、ここまで学生主体で動いた経験がなく、基盤の無い中で様々なことを模索しながら進めていった。また、新型コロナウイルスの影響により、食品の衛生管理が厳しく取り締まられることとなり、プロジェクトはより困難を極めた。しかし、関係者の皆様のご協力と学生の努力により、イベントが開催された2日間で新商品を完売し、売上の一部を旦過市場に寄付することができた。また、多くのメディア取材を通して、小倉の「ぬか炊き」を多くの方に伝えることができた。

〈楽しかったこと〉(学生の声)

- ・自分たちで企画したメニューが実物になり、多くの人に食べてもらえたこと。
- ・試作会するとき、みんなで試作品を食べながらアイデアを出し合ったのが楽しかった。
- ・試作会でぬか炊きと合う食材を模索したのが楽しかった。
- ・みんなで話し合っって作ったものが形になっていくのを見ていて楽しかった。

〈難しかったこと〉(学生の声)

- ・食や衛生に関する、自分の専門分野外に触れたこと。
- ・関係者の方と密に連絡をとり、正確な情報を伝え合うことが難しかった。
- ・一人一人の個性を活かしながらみんなで協力して活動すること。
- ・チームがどう動いていくかの計画を立てること。

〈得たもの〉(学生の声)

- ・団結力の大切さを学んだ。
- ・周りの方の助けがあってこそ出来たプロジェクトだから、周りの方に対する感謝の心が芽生えた。
- ・みんなで活動する上での協調性。
- ・企業や行政機関へのメールの書き方を学んだ。

## 7. 今後の課題

イベントの準備期間中に、計画通りに進まないことが多々あった。準備期間からイベント当日までどんなイレギュラーが起こるかということを入れて、計画に十分なゆとりを持たせるように工夫したい。また、学生同士での情報共有が充分でなかったことにより、学生間でスケジュールの誤認が生じてしまったため、緊密な連絡を徹底したい。

## 8. 謝辞

ぬか炊きをご提供頂いた百年床宇佐美商店様をはじめに、試作会のみならずイベント当日まで商品管理や衛生管理のご指導をして頂きました栄養士の方、このプロジェクトに関わって頂いた皆様に感謝の意を申し上げます。

## 9. 添付資料



宇佐美商店との会議の様子



栄養士の方と試作品を作っている様子



イベント当日のマルゼミメンバー



イベント当日に学生が取材を受けている様子

# 1. 企画名 SNS 情報発信活動を用いた上海・仁川学生との交流

2. 主催者名 人文学部観光文化学科

3. 企画者代表 人文学部観光文化学科 劉明

## 4. 概要

### (1)活動の経緯と目的

劉ゼミは昨年度から中国・韓国をターゲットとした北九州市の旅行プラン記事を作成し、SNSでの情報発信活動を行ってきた。SNSでの反響もあったが、より多くの人に見てもらい、実際に記事についての反響を見たく、本学の協定校である上海師範大学旅游高等専科学校のご協力のもと交流会開催に至る。交流会では、実際に北九州市より深く知ってもらうとともに観光に対するニーズ調査を行いながら、学生間での交流を深めることを目的としている。

仁川学生とのオンライン交流会では、COVID-19の水際対策が大幅に緩和されたことにより、韓国からの旅行者の増加が見込める中、女子大生の視点で北九州市の魅力と同世代である現地の韓国大学生にPRすることで、北九州市のシティプロモーション及びインバウンド観光の増加に繋げることを目的とした交流会を実施する。

第二回上海学生とのオンライン交流会では、前回の情報発信を踏まえて、上海の観光資源や観光情報について紹介していただき、双方向のコミュニケーションを図ることを目的としている。また、Google フォームを活用し、ニーズ調査を行い、今後のSNS情報発信活動に繋げていく。

### (2) 実施日時・場所・参加人数

実施日	時間	場所	活動内容	参加人数
2022年 7月7日(木)	14:40~16:10	本学 (オンライン)	北九州市の紹介 秋A旅行プラン紹介 質疑応答	劉明 学生27名
2022年 12月6日(火)	14:40~16:10	本学 (オンライン)	上海の観光資源 観光情報の紹介 質疑応答	劉明 学生26名
2023年 1月17日(火)	14:40~16:10	本学 (オンライン)	地元の大学生がおすすめする北九州市の観光スポットの紹介 質疑応答(ニーズ調査)	劉明 学生26名

## 5. 評価

### ・学生参加者の感想

コロナ禍で異文化交流をすることは難しい状況にあったが、二回の交流会を通して、上海の学生と交流を図り、双方向の文化理解を深めることができた。また、上海の学生に北九州市の魅力

を伝え、興味を持ってもらえたことが嬉しかった。中国人が抱いている日本への疑問や思いも色々な面から聞くことができ、非常に興味深く、これからの北九州の観光にも生かせるのではないかと思った。

一回の開催で終わるのではなく、主催者を変えて二回目を行うことでこちら側からの情報を伝えるだけではなく上海の情報を得ることができ、初めて知ったことも多く興味が湧いた。今後も交流会を開催する際には、このような双方向の交流ができれば良いと思う。交流会終了後に、相手側からコメントをもらうことで私たちの活動が、今後の北九州の観光に少しでも役に立っている実感が湧き、やりがいを感じることもできた。

上海交流会と仁川交流会の3回の交流会を通して、学生のプレゼンテーションやプレゼンテーション資料についてお褒めの言葉をいただき、自分自身のプレゼンテーション能力の向上やコミュニケーション能力の向上を実感できた。

仁川交流会では、通訳を交えながらの交流であったが、言語が違っても積極的に双方向のコミュニケーションが取れたことはとても良い経験になった。言語が通じないからこそ異文化交流をより感じることもできた。表情や声色に気を付けながらプレゼンテーションを行った。

仁川交流会を通して、聞き手の立場になって考えることが重要であると学んだ。原稿の作成では、難しい言葉を分かりやすく説明したり、発表では、表情に気をつけたりなど言葉が通じないからこそ、意識しなければならないことが沢山あることが分かった。

仁川交流会を通して、限られた時間の中で、プレゼンテーションの資料作成や原稿の作成、練習など、大変なこともあったが、ゼミ生とともに協力し交流会を成功させることができ、達成感を得た。

## 6. 今後の課題

オンラインでの交流会を通して、中国人や韓国人が北九州市について抱いているイメージやニーズを知ることができた。収集した情報を活用し、北九州市のシティプロモーション及びインバウンド観光の増加に繋げていけるよう、引き続き SNS 情報発信活動を行っていききたい。

今回の交流会だけでなくこれからも引き続き交流を図り、長期にわたって海外の同年代の学生に北九州市を知ってもらいたい。具体的には、仁川交流会で、Google フォームでのアンケート結果では、実際に北九州市を訪れたいと回答してくれた人が多く、また北九州市の食文化に興味があると回答する人が多かった。このアンケート調査の結果を今後の SNS 情報発信活動に活かしていく。

## 7. 謝辞

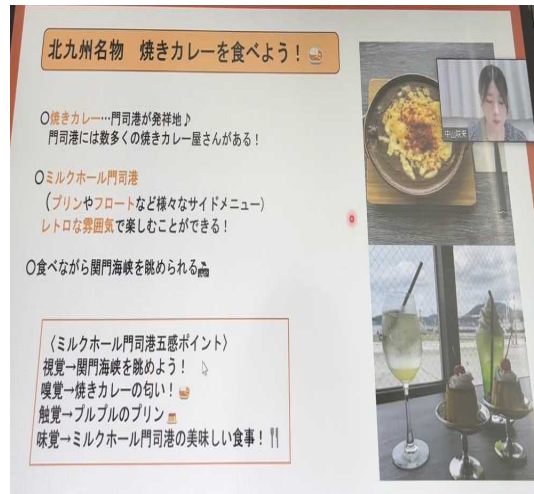
上海・仁川学生とのオンライン交流会（地域貢献活動）にご指導いただいた国際政策課、上海旅游高等専科学校 旅游外語学院の先生、学生、仁川大学の学生の皆様ならびに多大なご協力をいただいた西南女学院大学及び観光文化学科の教職員・学生の皆様に対し、感謝の意を申し上げます。

## 8. 添付資料

上海・仁川学生オンライン交流会実施時の様子（写真添付）



写真① 上海交流会の様子



写真② 上海交流会でのプレゼンの様子



写真③ 仁川交流会の様子



写真④仁川交流会の様子

# 1. 企画名 北九州市のインバウンド観光振興活動

2. 主催者名 西南女学院大学人文学部観光文化学科

3. 企画代表者 西南女学院大学人文学部観光文化学科 劉明

## 4. 概要

### (1)活動の経緯と目的

北九州市のインバウンド観光振興活動は、①小倉城竹あかりボランティア活動 ②第1回(2022)学生対抗九州ビジネスプランコンテスト ③北九州市観光振興プラン検討会の3つの活動を行った。

①小倉城竹あかりボランティア活動には、劉ゼミ3年生が参加した。「小倉城竹あかり」は小倉城に3万個以上の竹灯籠を灯すイベントで、毎年恒例の行事として定着している。ボランティアとして地域に貢献すると共に、観光を学ぶ地元の大学生として、イベントの魅力を発見したくボランティア活動に参加した。

②第1回(2022)学生対抗九州ビジネスプランコンテストは、大学生活を過ごした北九州市を舞台に、大学での学びを活かして九州の他地域に誇れる魅力を発掘しインバウンド観光増加と北九州市のイメージを定着させるビジネスプランを立案し、コンテストに応募する。コンテストでは、ビジネスプランにより九州全域または九州各地の地域資源の特色を活かしつつ、九州のリピーター獲得に繋げる事を目的としている。

③北九州市観光振興プラン検討会は、北九州市観光課からのご依頼により劉ゼミ4年菅本美空が構成員として就任した。検討会は令和4年度7月～令和5年度3月の期間のうち、4回開催している。策定にあたっては、学識経験者や専門家、学生等から構成される「北九州市観光振興プラン検討会」を設けて、北九州市の観光振興について検討をいていくこととしている。

### (2) 活動スケジュール

#### ①小倉城竹あかりボランティア活動

日程	時間	場所	活動内容	参加人数
2022年 11月3日(木)	14:00~21:00	小倉城	竹灯籠を並べ、キャンドルを入れ、火をつける・片付け	学生3名
2022年 11月5日(土)	14:00~21:00	小倉城	竹灯籠を並べ、キャンドルを入れ、火をつける・片付け	学生10名

②第1回(2022)学生対抗 九州ビジネスプランコンテスト

日程	時間	場所	内容	参加人数
2022年 6~7月			事前エントリーシート作成	学生6名
2022年 8月23日(火)	12:00~16:00	小倉北区	現場調査①	学生2名
2022年 9月13日(火)	11:00~16:00	門司区・ 八幡東区	現場調査②	学生4名
2022年 9~10月			事業計画書作成	学生6名
2022年 11月10日(木)	10:00~10:30	Zoom	北九州市役所観光課 へヒアリング調査	学生6名

③北九州市観光振興プラン検討会

日程	時間	場所	内容	参加人数
2022年 7月12日(火)	15:00~16:30	AIMビル3階 315会議室	次期観光振興プラン 策定にあたっての現 状の整理	学生1名
2022年 8月24日(水)	10:00~12:00	AIMビル3階 312会議室	市政モニターアンケ ート結果報告及び次 期観光振興プランの 概要説明	学生1名

## 5. 評価

・学生参加者の感想

- ①小倉城竹あかりボランティア活動…イベントに参加する側の視点だけでなく、イベントを創る一員として活動することで、北九州市の新たな観光資源となるイベントの魅力を発見することができた。
- ②九州ビジネスプランコンテスト…大学4年間学んだ知識と劉ゼミでの活動経験を活かしながらも、北九州市の観光スポットに新たな魅力を発見する事ができた。一次審査で敗退し、残念な結果ではあったが北九州市の将来像を見据えながらプランを考案し、ビジネスとしての観光の考え方を学んだ。
- ③北九州市観光振興プラン検討会…令和5年4月から5年間の北九州市の観光振興プランの位置づけを検討した。また北九州市観光の現状と最近の取組について学んだ。

## 6. 今後の課題

北九州市には気づけていない魅力がまだまだ豊富に備わっているかもしれない。ゼミでの活動

を大切にしながら、新たな観光資源としての特色を見つけられるよう視野を拡げ、また北九州市の観光の現状や課題を知り、今後何を強化する必要があるか考えていきたい。

## 7. 活動経費

西南女学院大学地域連携室より活動助成金を受け実施。

## 8. 謝辞

北九州市のインバウンド観光振興活動にご指導いただいた、北九州市役所国際政策課、小倉城竹あかり実行委員会、九州観光ビジネスプランコンテスト事務局、北九州市役所観光課の皆様に対し、感謝の意を申し上げます。

## 9. 添付資料

北九州市のインバウンド観光振興活動の様子（写真資料）



写真①

小倉城竹あかりボランティア  
参加時の学生



写真②

竹あかりの様子



写真③

ビジネスプランコンテスト  
現地調査の様子(1)



写真④

ビジネスプランコンテスト  
現地調査の様子(2)



写真⑤

ビジネスプランコンテスト  
話し合いの様子



# 1. 企画名 小倉北区魅力向上事業

2. 主催者名 小倉北区役所総務企画課

3. 企画代表者 西南女学院大学 人文学部観光文化学科 高橋幸夫

4. 参加者 観光文化学科 3年 岩切悠乃 片山ひびき 神田千聡 甲木海優  
工藤愛生 中村結衣 野本彩 福田千夏  
福原香寿美 守田美桜

## 5. 概要

### (1) 背景及び目的

小倉北区魅力向上事業である「コクラニキタイ」プロジェクトは、北九州市小倉北区の街が持つ魅力を様々な視点から発信するため、小倉北区役所と西南女学院大学観光文化学科の学生が取り組む官学連携の地域活性化活動である。地域住民に対して小倉の街が住みやすい・働きやすい・面白い街であることを女子大生の視点から発信し、地域住民のシビックプライド醸成に繋げる。また観光客・移住者・進学予定者に対しては、食/歴史/学び/自然など魅力豊富な地域であることを伝え、訪れてみたい、住んでみたいと思わせる仕掛けを創出、住民満足度の向上・観光客増加・移住定住促進および他縣市からの市内大学等への進学率 UP を図る。小倉北区を拠点とした活動を通し、北九州市全体の活性化に繋げる活動である。Z世代をメインターゲットに SNS、リアルイベントを活用した情報発信を行っている。

### (2) コンセプト (コクラニキタイ活動コンセプト)

活動名称の「コクラニキタイ」には「(小倉に) 期待・来た・来たい」の3つの意味が込められており、小倉の「ひと」を媒介として小倉北区の魅力を幅広く知ってもらう活動である。

### (3) 活動内容

#### ① Instagram での発信(2021年8月1日開設)

ターゲットである Z世代に、ひとの魅力を伝えるため学生が興味を持った「ひと」取材し、Instagramの機能や特徴を捉えながら投稿を作成し、発信している。

#### 取材投稿の流れについて



#### ② 「旦過市場」の応援動画制作(2022年6月17日実施)

再整備前の「今」の旦過市場を「記憶と記録」に残すため、旦過市場の店主の方々の「あ、いらっしゃい」という元気な掛け声をキーワードにし、迎えられる温かさを伝える動画制作を進めた。しかし、動画制作期間中に旦過市場にて火災が発生。災禍に屈せず、旦過市場には今も変わらず店主の方々の活気が溢れていることを発信し、少しでも明るい気持ちになってもらいたいという想いを込めて「旦過市場応援動画」として制作

を進めた。本動画は SNS、小倉駅のデジタルサイネージにて配信した。

③英語版コクラニキタイ Real Kokura(2022年10月14日開設)

アフターコロナのインバウンド誘致の仕組みとして英語学科と協働し、英語版コクラニキタイとして、英語版情報発信アカウント「Real Kokura」をInstagramにて開設した。アフターコロナを見据えた英語版での情報発信としての展開をしている。「コクラニキタイ」プロジェクトで培ってきた投稿用情報のまとめ方と編集技術を活かしながら、インバウンド客向けの歴史解説や街の周遊方法、多言語対応可能なスポット紹介など海外観光ならではの悩みや困りごとに寄り添った情報発信、ブラッシュアップしたコンテンツを制作し、インバウンド客の北九州及び小倉観光の手助けとなるアカウントとしての確立を目指している。

④北九州市立足立小学校での出前授業(2022年10月6日実施)

足立小学校は旦過市場復興支援のためのオリジナル弁当を企画しており、「コクラニキタイ活動」と目標が重なったことから、この出前授業が実現した。授業の中では「コクラニキタイ」活動についての紹介、北九州市の魅力について考えるワークショップを実施した。

⑤2022小倉イルミネーション「あなたを照らすキタイドーム」プロデュース・点灯式(2022年11月25日実施)

紫川河畔ポンプ室前スポットにてイルミネーションプロデュースを行った。点灯期間中は季節イベントに合わせてドームの内装を変え、Instagramで発信することで、リピーターを増やす工夫を行った。

⑥つなぐヒカリプロジェクト(2022年12月18日実施)

福岡県立小倉商業高等学校生徒と西南女学院大学生が北九州高速鉄道株式会社(北九州モノレール)様のご協力のもと、クリスマス特別装飾列車のプロデュースを行った。このプロジェクトは「明るい未来をヒカリでつなごう」というコンセプトを軸に、コロナ禍で学生生活を制限された高校生と大学生が共同し、地域活性化に貢献したいという思いから始まった活動である。2022年10月から北九州モノレール城野駅・旦過駅・小倉駅、特別列車内の装飾、イベントを企画実施した。

## 6. 活動を振り返って

### (1) 活動を通しての学び

- ・ Instagramの情報発信において、どのような投稿がZ世代から共感を得られるのかを第三者の意見やデータを参考に、発信する大切さを学んだ。
- ・ イベント実施する上で、関係者が共通の目標認識を持つことが重要であると学んだ。
- ・ 目標認識を共有することで一体感の醸成と、団結して活動する事を学んだ。

- ・地域の課題に対して効果的にアプローチするために、マーケティング等の視点から課題解決を図る重要性を学んだ。

(2) 今後の課題と方向性

- ・小倉北区の魅力を発信する立場として、北九州市・小倉北区を、課題を含め幅広く、かつ深く学習、理解する。
- ・情報がより多くのZ世代にリーチできるよう、日々変わりゆく SNS 投稿スタイルへの対応を図り、「コクラニキタイ」プロジェクトのさらなる知名度の向上を図る。

7. 謝辞

投稿取材をご快諾してくださった企業様をはじめ、本事業においてご支援・ご指導いただいております北九州市小倉北区総務企画課、教育機関の皆様、温かく活動を見守ってくださった地域住民の皆様のお力添えにより活動が実現でき、継続させていただいておりますこと、また参加学生自身の成長につながっておりますことを心より御礼申し上げます。

8. 添付資料

写真1：投稿取材の様子



写真3：Real Kokura の Instagram 投稿写真



写真5：2022 小倉イルミネーション

「あなたを照らすキタイドーム」



写真2：「巨過市場応援動画」JR 小倉駅のデジタルサイネージ



写真4：足立小学校での出前授業の様子



写真6：つなぐヒカリプロジェクトの告知ポスター



1. 企画名 MOTENA-Seaプロジェクト(地域プロジェクト)
2. 主催者名 商船三井テクノトレード株式会社
3. 企画代表者 西南女学院大学 人文学部 観光文化学科 高橋幸夫
4. 参加者 地域プロジェクト履修学生(英語学科・観光文化学科) 16名  
 観光文化学科 3年 高橋ゼミ 9名  
 岩切悠乃 片山ひびき 神田千聡 工藤愛生 福田千夏  
 福原香寿美 中村結衣 野本彩 守田美桜

## 5. 活動概要

### (1) 背景及び目的

2021年9月28日に本学と商船三井テクノトレード株式会社との間で「教育事業に関する包括連携協定」が締結された。商船三井テクノトレード株式会社は門司港・小倉を中心としたエリアにて水素とバイオ燃料を利用したハイブリッド型先進船舶MOTENA-Sea(船名未決)の運航を計画している。本活動では、MOTENA-Seaの商用コンテンツ企画開発を行い、学生の地方創生・地域開発・企画開発に対する教育向上と能力醸成を目的としている。

### (2) 2022年度活動内容

#### ①瀬戸内フィールドワーク

2022年9月12日・13日 参加：高橋ゼミ3年生

<フィールドワークの目的>

- ・海上交通が盛んな都市、日本遺産がある都市という関門と共通点の多い瀬戸内海にて運航している観光船に乗船し、周遊を目的とした船舶の活用方法について学ぶ。
- ・従来の定期航路(フェリー)では成し得なかった「移動を楽しむ」というコンセプトを掲げているシースピカ・シーパセオにて「船内周遊を促す空間構成」について学ぶ。

<視察内容>

- ・シースピカ・シーパセオ乗船視察
- ・船舶と観光地との連携について視察
- ・松山城にてVRコンテンツの体験

#### ②コンセプト設定

2021年度コンセプトから再考を行い、2022年度企画コンセプトを「Eggい」とした。

<コンセプト「Eggい」に込めた想い>

「誕生」それは奇跡である。雛は卵の殻を中から、くちばしでつつくことで「誕生」する。MOTENA-Seaは、まるで、海に浮かぶ美しい卵。しかし、中に雛(企画)がない限り、MOTENA-Seaに「誕生」という奇跡は起こらない。私たちの考える「斬新な企画」がMOTENA-Sea内を駆け巡り、刺激し、新しい船舶を「誕生」させる。女子大生の感性を活かした「Eggい(エグい)」ほど新時代な企画を立案していく。

※エグい…予想外の出来事に遭遇したときなど驚きの表現を表す若者言葉

### ③活用案立案

商船三井テクノトレード株式会社から提示された船舶活用イメージをもとに5つの領域にて企画立案を実施。

### ④成果報告会

2022年度の活動成果報告として、事業与件の整理、データ分析、コンセプト、企画案、プロモーション案で構成されたMOTENA-Sea活用案を学内外関係者に報告した。

#### (3) 企画案

##### 【船でしか行けないところに行く】

- ・北九州空港に離着陸する飛行機を「Eggい」角度から見るクルーズ

##### 【船の上でしかできないことをやる】

- ・海洋ごみで作るハンドメイド体験
- ・AR機能で「SDGs & 環境問題・歴史」を学ぼう！
- ・親子で「Eggい」ほど面白く学べる体験型学習の提供

##### 【場を作る】

- ・MOTENA-SeaでOnly English(Chinese, Korean)Party
- ・北九州ならではの「Eggい」お酒を海上から楽しむクルーズ
- ・MOTENA-Sea×ユニークベニューでスタートアップ者に「Eggい」出会いを創出

##### 【発信する】

- ・MOTENA-Seaでレトロ感じる喫茶店
- ・日本の四季を体感MOTENA-Seaで和カフェ
- ・話題性抜群！「Eggい」MOTENA-Seaで海上茶会
- ・海上Cafe&Barで「Eggい」ほど、ほろ酔う大人の夜景クルーズ

##### 【つながりをつくる】

- ・海上食事～旦過市場のいつもの味をMOTENA-Seaで～
- ・OSU-Sea～平日こそ関門へCOME ON～
- ・吉本MOTENA-Sea劇場
- ・織なすMaaS

#### (4) 活動の流れ

日時	活動内容
2022年9月12日（月）・13日（火）	瀬戸内フィールドワーク（高橋ゼミ生）
2022年9月30日（金）～	2022年度地域プロジェクト開講
2022年11月5日（土）	関門フィールドワーク （関門汽船株式会社運航の遊覧船に乗船）
2022年12月16日（金）	中間報告会
2023年1月27日（金）	成果報告会

## 6. 活動を振り返って

- ・活動を通して得たこと

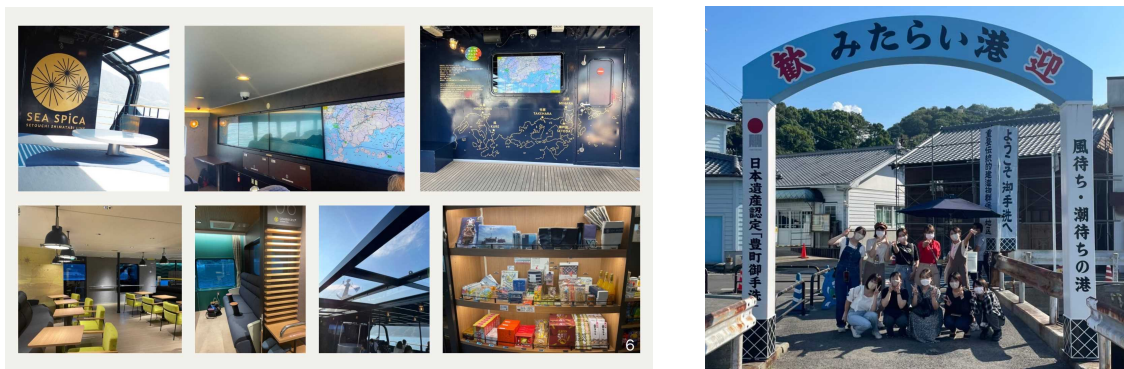
実現可能性の高い企画にするためには、他企業の成功事例などを参考にし、積極的に自身の企画を検証していくことが大切であると学んだ。企画のターゲットの定め方によって実施する内容、提供価値が変わってくることから、顧客セグメントの重要性を改めて学んだ。

- ・今後を活かしたいこと

他学年、他学科と共同で活動することで得た新たな視点を今後の企画立案を活かしたい。MOTENA-Seaと関門地域の繋がりを考えていく中で、地域全体を巻き込んだ企画立案の必要性を感じた。今後も、常に関門地域の情報に対してアンテナを張り、船舶に関する情報収集なども積極的に行っていきたい。

## 7. 添付資料

瀬戸内フィールドワーク



授業風景

関門フィールドワーク



成果報告会



## 企画名 行橋市観光庁看板商品事業

1. 企画名① 「行橋の海と山を舞台に 親しみながら学ぶ！」モデルツアー企画
2. 主催者名 株式会社オリエンタルコンサルタンツ  
行橋にぎわいづくりパートナーズ
3. 企画代表者 西南女学院大学 人文学部観光文化学科 高橋幸夫
4. 参加者 観光文化学科3年 岩切悠乃 神田千聡 工藤愛生 中村結衣  
野本彩 福田千夏 福原香寿美 守田美桜

### 5. 概要

#### (1) 背景及び目的

漁業は担い手不足や新型コロナウイルス感染症による潮干狩り等の観光需要の減少により継続が困難で、山間部では高齢化で里山保全やコミュニティの存続が課題であることから、海と山の観光活用、連携したコンテンツ開発により、関係人口の拡大による地域産業、経済の活性化が急務である。この現状を踏まえ、地域ならではの観光資源を活用した看板事業となり得るコンテンツの造成・創出を目的とした。

#### (2) 活動内容

##### ア. 海石榴（つばき）カレーパッケージデザイン検討

・行橋市ふるさと納税の返礼品として提供するカレーのパッケージデザインの制作に学生が携わった。オンライン会議にて、学生が検討したパッケージデザインを椿村の方々に発表し、フィードバックを基にブラッシュアップを進め、この体験を活かして商品名も考案した。

##### イ. モデルツアー企画ワークショップ〔2022年10月23日（日）〕

・椿村フィールドワークを実施し、観光資源の洗い出し、グループに分かれてディスカッション、ツアー企画発表を行った。

また、上記椿村カレーの試食や、菜の花の種まき体験など椿村の方々と実際に交流した。

##### ウ. ツアー検討 成果報告会〔2022年11月24日（木）〕

・最終的なツアー企画を株式会社オリエンタルコンサルタンツ様に提案した。

### 6. 成果

#### ア. 海石榴（つばき）カレーパッケージデザイン



## イ. モデルツアー 概要

- ・ ツアータイトル・コンセプト

### -YUKUHASHI CHRONICLE- アドベンチャーオブ 行橋

\*本ツアー参加者の人生において1つの「物語(chronicle)」となってほしいという想いをコンセプト、ツアータイトルに表現した。参加者にはツアーの始めに「アルバム」、「チェキカメラ」を渡し、ツアー中に撮影した写真を思い出と共にアルバムに綴り、「参加者の物語」を完成させる構成とした。

- ・ ツアーターゲット

ファミリー層：子供の成長物語の一編に

Z世代：学生の友人同士、カップルの物語（思い出）の一編に

- ・ モデルツアー行程

#### ◇春のツアー

ツアー行程(1日目)		ツアー行程(2日目)	
9:30 行橋駅集合→貸し切りバスで旧みのり保育園へ移動(ご協力：太陽交通様)	17:00 椿村の方と一緒に料理体験(菜の花ご飯、春の食材を使ったレシピ)	9:00 朝ごはん(ご協力：石窯パン工房自然屋様)	15:00 アルバム作り 2日間の思い出を振り返りながらアルバムを作る。 写真には感想も添える。
10:00 アルバムの配布&説明	19:00 夕飯	10:00 貸し切りバスで、長井浜公園まで移動(ご協力：太陽交通様)	
11:00 桜並木、菜の花畑まで散策	20:30 アルバム作り	10:30 ハンドメイド体験会 思い出の貯金箱作り ピーチコミングした後に 昨日作った押し花も使い製作	17:00 解散・行橋駅まで貸し切りバスで移動(ご協力：太陽交通様)
12:00 花見 お弁当を配布(あうんDining)	21:30 フリータイム (お風呂に入る、テントを立てる 大人は星空を見ながらビール)	12:00 昼食 波乗りカレー	シャッターチャンス ・ハンドメイド体験 ・宝探しゲームではしゃぐ姿
13:00 旧みのり保育園へ移動 フリー(仮眠、運動場で自由に遊ぶ)	シャッターチャンス ・お花見 ・料理体験	フリー	
15:00 おやつタイム(蜂蜜ソフトクリーム)		14:00 浜辺で宝探しゲーム	

## 6. 活動を振り返って

Z世代のニーズを踏まえ、行橋市にある海と山の資源を有効活用することで、Z世代が足を運びたいようなツアーを企画することができた。また、海石榴(つばき)カレーパッケージについては、私たちが手掛けたデザインが商品として形に成り、行橋市に貢献することができた。

## 7. 今後に活かせること

行橋市の自然に触れる機会を通して、自然の豊かさを肌で感じられた。この自然の豊かさを守るには、今後の環境保全活動への参加、情報発信などで活かすことができると考える。ビジネスモデルキャンバス(BMC)ツールを用いてツアー案を考案したことにより、ビジネス視点を養うことができた。これは就職活動及び社会人生活での自信・強みになると考える。

## 8. 謝辞

本活動を進めるにあたり、始終暖かく見守ってくださった株式会社オリエンタルコンサルタンツ様、またお忙しい中親身にご指導いただきました行橋にぎわいづくりパートナーズ様に御礼申し上げます。そして始終適切な助言を賜り、本当にありがとうございました。



1. 企画名②                    2022 行橋市長井浜テレビ CM 企画
2. 主催者名                株式会社オリエンタルコンサルタンツ  
                                 行橋にぎわいづくりパートナーズ
3. 企画代表者            西南女学院大学 人文学部観光文化学科    高橋幸夫
4. 参加者                 観光文化学科 4 年    岩崎亜海    岡田巳月    白川唯    冽鎌彩樺    寺松舞  
    中村夏菜    安村佳夏    大和夏希  
                                 観光文化学科 3 年    岩切悠乃    神田千聡    工藤愛生    中村結衣  
    野本彩        福田千夏    守田美桜

## 5. 概要

### (1) 目的

- ・行橋市長井浜公園及びマリンアクティビティの集客・認知度向上

### (2) 活動内容

#### 【撮影前までの取り組み】

- ・3月上旬：インスタグラムやテレビ CM 等からの素材集め
- ・4月中旬～5月下旬：絵コンテ案の製作、プレゼンテーション⇒絵コンテ完成

#### 【撮影 6月18日～19日】

- ・長井浜公園で楽しんでいる様子やマリンアクティビティを体験しているシーンの撮影



## 6. 成果

テレ Q（株）TVQ 九州放送）にて 2022 年 7 月 1 日から 8 月上旬に 100 本放映

## 7. 活動を振り返って

2021 年度はテレビ CM 撮影を行うことができなかったが、2022 年度は天候にも恵まれ、無事に撮影を行うことができた。私たちが携わったテレビ CM を見て、行橋市長井浜公園及びマリンアクティビティに興味関心を持ってもらえるきっかけになったと感じる。

## 8. 今後に活かせること

今後も視聴者を惹きつけるような映像を制作することで、行橋市長井浜公園及びマリンアクティビティの認知度向上に貢献する。





# 2022年度地域連携室の取り組み

## 1. 後期北九州市民カレッジの開講

### (1) 高等教育機関提携コース

#### (1) 概要

本学では、地域の皆様の多様な学習ニーズに対応した生涯学習機会を提供し、自己実現の促進を図ることを目的に、「令和4年度後期北九州市民カレッジ」を開講している。今年度は、10月27日～12月8日の6回シリーズで実施した。

#### (2) 全体テーマ 『日常をリフレッシュ～こころもからだも健康に～』。

この講座では、保健福祉学部福祉学科、栄養学科、人文学部観光文化学科、短期大学部保育科のそれぞれの専門領域から心身の疲れを癒し、日常をリフレッシュするヒントについての講義を行った。

昨年度に引き続き今年度においても、受講生の方々にも協力していただき感染対策を講じながら、無事に終了することができた。全体を通して、受講生の方は積極的に講義に参加し、意見や質疑応答が活発であった。また、会場を図書館内の施設（ラーニング・コモンズ）及びチャペルを行う礼拝堂ホールを利用することで、受講生の方に本学の施設を紹介することができた。次年度に関しても、引き続き開催する予定である。

#### (3) 各講座のテーマ

##### 第1回：「幸せのライフスタイルを求めて」

担当：保健福祉学部福祉学科 教授 中島 俊介

内容：人生の目的は幸せになること。この一点を見失わないようにするための心構えについて話した。受講生の方々には、どなたも熱心でこちら側が圧倒されるほどの熱情を感じた。



##### 第2回：「心と身体のメディテーション」

担当：短期大学部保育科 准教授 東 彩子

内容：ピラティスに関する講義や讃美歌に合わせたエクササイズを行った。健康に関する参加者のディスカッションでは、各自のユニークな取り組みから互いに学び合うことができ、有意義な

回となった。



### 第3回：「取り入れよう！！食品の力」

担当：保健福祉学部栄養学科 講師 船越 淳子

内容：「取り入れよう！食品の力」をテーマとして、ストレス解消につながる成分を豊富に含む食品を紹介した。また、それらを効果的に摂取するためのポイントについて併せて講義を行った。



### 第4回：「これからの海外旅行スタイルーwith コロナにおける今後についてー」

担当：人文学部観光文化学科 准教授 角谷 尚久

内容：コロナ禍が発生から約3年が過ぎ、海外旅行復活の機運が高まっている。そのような中、各国の動向、航空会社の取り組み、公的機関の人流予測などを交えて、今後の海外旅行の在り方を解説した。



## 第5回：「コロナ禍でもがん検診は大切です」

担当：保健福祉学部栄養学科 教授 高崎 智子

内容：健康に関する意識が高く、皆さん熱心だった。がん検診で病気が見つかることややはり不安だと話されていたため、医療人としても患者さんの不安な気持ちへの配慮を忘れてはいけないことを再認識した。



## 第6回：「音楽でリフレッシュ！」

担当：短期大学部保育科 教授 末成 妙子

内容：参加者の皆様と懐かしい唱歌・童謡を歌い、その曲の誕生秘話をお話しした後、ゼミの学生とクリスマスソングなどを楽しんだ。フィンガーシンバル・ウッドブロックなどを使った合奏をマロリーホールいっぱいに響かせて、音楽に包まれたひと時を過ごすことができた。



### (4) 受講生数

10名（単位認定者10名）で、スポット受講生延べ10名。



## (2) 大学連携リレー講座

### 1) 概要

北九州市民カレッジにおいて、あらかじめ設定した「共通テーマ」に対し、大学の専門性や特性を活かした講座企画を募集し、複数の大学による連携講座を実施している。本学から1名が毎年講師として参加している。

### 2) 全体テーマ

『デジタル化の抱える課題と私たちの未来』

コロナ禍で、私たちの暮らしは大きく変わりました。ウィズコロナ、アフターコロナといわれているように、終息後に以前と同じ状態に戻ることはなさそうです。今後は、人口減少や少子高齢化などが進み、社会の構造の変化も予想されます。また、行政だけでなく、企業などにおいても、SDGs達成のためのDX推進など、様々な変化が起きています。今起きている変化やこれから予想されることを学び、変化する社会の中で、私たちがよりよく生きるためにはどうすればよいのかを考えていく講座を開設します。

### 3) 担当講師

人文学部英語学科 講師 アンデリュウ・ジッツマン



### 4) 講座テーマ

『言語学習のデジタル化』

老化防止のために脳を刺激する最適な方法のひとつが、語学の勉強であることはよく知られています。最近では、語学学習の手助けだけでなく、楽しく学習できるアプリやデジタルツールがたくさんあります。しかし種類も多く、どのサービスが良いのか、また使用方法がわからないことがあります。この講座ではワークショップ形式で、スマートフォンやPCを使用した英語学習方法を本学英語学科学生と一緒に紹介します。

### 5) 内容



まず初めに、アイスブレイキングとして、受講生同士簡単な英語で自己紹介する機会を作った。次に、今回のテーマとなるデジタル言語教育について講義を行った後、iPadの使い方及び語学学習アプリを紹介し、それぞれに体験する機会をつくった。受講生の皆さんは、興味深く熱心に講義に参加していた。

## 2. 中高生のための絵本講座

地域連携室子ども子育て支援ワーキンググループ

メンバー：命婦恭子（保育科）、天本理恵（栄養学科）、阿南寿美子（保育科）

### 1. 活動の目的

2022年度は、地域連携室の子ども子育て支援ワーキンググループ(WG)による地域貢献活動として、公開講座を開催した。「中高生のための絵本講座」と題して、2回連続講座とし、1回目は2名の絵本作家と本学保育科教員との対談形式でおこなった。2回目は、保育科教員が講師となり、ワークショップ形式で絵本の読み聞かせの実践をおこなった。

子ども子育て支援WGの講座にもかかわらず「中高生のための」と題したのは、この講座が思春期のころから地域の子育て支援に参加するきっかけになることを意図している。近年の核家族化や少子化の中で、思春期の頃に子育てに参加するアロマザリングの機会が失われ、子どもとふれあう経験が少ないまま親となっていることが、子育てを難しくしている要因のひとつではないかと考えているからだ。

### 2. 当日の概要・内容

#### 1) 講座1：二人の絵本作家に聞く「絵本で伝えたいこと」

期日：2022年6月18日（土）13：00-14：30

会場：本学6号館6206教室

講師：はしもとえつよ・荒戸里也子

内容：それぞれの講師から絵本作家になったきっかけや絵本作成のプロセスについて対談形式で話を聞いた。アイディアメモや採用されなかった絵などを提示しながら、完成した作品からは知ることができない制作過程を知ることができた。また、2名の作家の原画展を同時に開催することができ、展示会場では、原画や絵本の内容について作家から直接話を聞く機会をもつことができた。

#### 2) 講座2：絵本の読み聞かせ講座「絵本で伝える方法」

期日：2022年7月2日（土）10：30-12：00

会場：本学3号館331教室

講師：池田佐輪子

内容：本学保育科の学生による絵本の読み聞かせのデモンストラーションのあとに、講師から絵本の読み聞かせの心構えやコツなどが講義された。その後、保育科の絵本の部屋と図書館の蔵書から講師が選書しておいた絵本を用いて、受講者が保育科の学生とペアになり、実際に読み聞かせをおこなった。講座の内容は実践的で、和やかな雰囲気のもとで講座が進んでいった。





### 3. まとめ

受講者の多くは、子育て中の女性や子育て支援活動に参加している地域住民で、数名であるが中高生の参加者もあった。講座内容は、参加者から概ね好評であった。このような公開講座を参加費無料で開催できたのは、保育科がこれまでの教育活動の中で、複数の絵本作家との連携をおこなってきたことによるところが大きく、大学が主催する公開講座だからできる地域貢献であると考えている。このような公開講座を継続していくことで、地域での認知度が上がれば、受講者の属性も広がり、地域への貢献度も高くなっていくのではないかと考えている。



図1 第1回講座の様子



図2 第1回講座の講師から色紙をいただいた



図3 第2回講座の様子



図4 ペアで読み聞かせの実践をしている様子



### 3. 卒業生パネルの展示

- (1) 主催：女性活躍ワーキンググループ
- (2) WGメンバー：神崎明坤（観光文化学科）、藤田稔子（保育科）、樋口真己（人文学部）
- (3) 企画

創立100周年記念式典において、会場ロビーでのバザーの実施（学内対象に参加募集）及び同窓生のパネルの展示を計画した。また卒業生パネルが一部学科に偏っていたため、さらに原稿を募ることとした。

(4) 内容：

1) 創立 100 周年記念式典における展示

会場でのバザーの実施については、新型コロナウイルス感染防止の観点から中止となり、これまで制作したパネル及び 2022 年度に新たに制作した全 36 点を会場に展示した。



2) 創立 100 周年クリスマス礼拝における展示

今年度は、併設校の中学校・高等学校と合同で開催したため、本学の学生、教職員だけでなく、中学校・高等学校生及びその保護者、教職員も参加したため、パネルをご覧いただくことができた。



## 4. フードドライブキャンペーン

このキャンペーンは、NPO 法人フードバンク北九州ライフアゲインが、食品ロスや子どもの貧困について普及啓発を図るために行っている。家庭で賞味期限内に消費できない食品を回収して、必要な方にお渡しする活動であり、本学は食品回収ボックス設置場所のひとつとして、2017年度より実施している。

**フードドライブ  
キャンペーン**  
1月17日(火)～24日(火)  
収集場所：6号館1階 庶務課前

◎ ご寄付いただきたい食品  
賞味期限が1ヶ月以上、未開封のもの  
米・乾麺・缶詰・レトルト・インスタント・菓子類

△ 受け取れないもの  
パッケージが破損し中身が出ているもの  
使いかけのもの  
アルコール・野菜等

SUSTAINABLE GOALS 持続可能な開発目標  
shkuib@shku.ac.jp  
Facebook

2022年度の開催は下記のとおり。

第1回 2022年9月6日(火)～9月13日(火)

第2回 2023年1月17日(火)～1月24日(火)

毎回、学生・教職員の協力により寄付品が集まっている。



## 5. 広報活動

### (1) 「北九州推しキャラ総選挙」への参加



(株)福岡リビングが「北九州推しキャラ総選挙」を開催することになり、北九州の“みらいつなぐ”キャラクターを募集していたため、本学のキャラクター「要(かなめ)ちゃん」も立候補した。市政60周年を記念して、北九州を愛する地元の60のキャラクターが立候補し、市民からの得票数1位が表彰されることになっている。

### (2) Facebook

ブログとともにイベント募集などの広報に使用するため、Facebook を開設した。今年度は絵本作家を招いての「絵本講座」や市民カレッジ講座の案内等を紹介した。

### (3) 地域連携室ブログ

地域連携室ブログでは、今年度の地域連携室のイベントや取り組み、ゼミや学外活動で取り組んでいる地域貢献活動をお知らせし、学内外への広報を積極的に行った。

ブログ更新 40件(2022年2月～2023年1月末現在)

### (4) 毎月の地域貢献活動ポスターを制作

月初めに、その月に実施予定の地域貢献活動を一覧にしたものをポスターにし、正門横に掲示板や学内電子掲示板を利用し、広く活動を紹介した。

**4月の地域貢献活動**

**みんなふれあい隊**  
代表者：池田 謙造(学生)  
日 時：4月8日(水)  
場 所：情報センター  
内 容：来校した児童・生徒の学習支援、学習環境の整備、学習用品の提供、学習支援を行います。

**一緒に遊ぼう**  
日 時：4月29日(土)10時～12時  
場 所：小倉駅 小倉駅前  
内 容：海苔の巻き方や遊び、折り紙、季節の歌などを行います。子供達の笑顔、準備、運営を通して地域の絆が深まります。

**最新SNSの紹介**  
SNSを利用したインバウンド集客研修・発信  
地元の観光資源を、SNS、YouTube、動画配信などを通じてSNSに発信して、来客、観光客を呼び寄せ、観光客の滞在を促します。

**Aプラン** **Bプラン**

**SUSTAINABLE GOALS DEVELOPMENT**

西南女学院は2022年に創立100周年を迎えます

**地域連携室**  
**ニュースレター** Vol.03  
令和4年9月号

**今月の地域貢献活動**

**「行橋市看板商品開発事業」**  
代表者：観光化学科 高橋幸次  
内 容：学生がアイデアを出し、地域産品を商品化する取り組み「行橋市看板商品開発事業」の取り組み、及びマーケティング専門家と協力しての商品開発を行います。

**SNSのご紹介**  
一緒にあそぼう  
一緒にあそぼう  
一緒にあそぼう

**「小倉北区魅力向上事業」**  
代表者：観光化学科 高橋幸次  
内 容：小倉北区の観光資源を、SNS、YouTube、動画配信などを通じてSNSに発信して、来客、観光客を呼び寄せ、観光客の滞在を促します。

**SUSTAINABLE GOALS DEVELOPMENT**

地域連携室  
chiik@seinan-ac.ac.jp  
Facebook

西南女学院は2022年に創立100周年を迎えました

**地域連携室**  
**ニュースレター** Vol.06  
令和4年12月号  
No.1

**今月の地域貢献活動**

**「みんな、だーい好き!!」**  
**みんなふれあい隊**  
代表者：池田 謙造(学生)  
日 時：12月20日(水)  
場 所：情報センター  
内 容：来校した児童・生徒の学習支援、学習環境の整備、学習用品の提供、学習支援を行います。

**一緒にあそぼう**

**クリスマス会**  
代表者：池田 謙造(学生)  
日 時：12月16日(金)  
場 所：学生211教室  
内 容：児童の皆さんと、一緒にあそぼう、クリスマス会を行います。

**SUSTAINABLE GOALS DEVELOPMENT**

地域連携室  
chiik@seinan-ac.ac.jp  
Facebook

西南女学院は2022年に創立100周年を迎えました





## 現在に繋がる力を身につけた地域活動

西日本新聞社 西澤 晴佳

(人文学部観光文化学科 2015 年度卒業)

私は学生時代に地域での課外活動に取り組んでいなければ、今の仕事に就いていなかったと思います。多くの課外活動を経験したことで、自分が本当にやってみたいと思える仕事が変わり、社会に出る前に自分の得手不得手を知る機会となりました。

取り組んでいた主な活動の1つに、門司港での袴のレンタルステーション運営(写真1・2)がありました。観光客に袴を着付け、門司港での周遊時間延長、ハレ効果による観光消費を促すことを目指した活動でした。おもてなしの心を学び、観光心理や観光業の難しさを学生時代に身をもって感じる事ができた貴重な経験で、思い出深い活動のひとつです。



《写真1》



《写真2》

また、当時まだ世界遺産の候補だった「明治日本の産業革命遺産」認定に向けたPR活動、吉本興業・We Love 小倉協議会主催の地域活性化舞台出演、小倉北区/魚町銀天街や若松区/大正町商店街との交流など、地域住民の方と密接に関係を築く機会もあり、場所も内容も幅広く「経験できるものは何でもやってみよう」という気持ちで取り組んでいました。これらの活動についてはラジオや地域団体の前で話す機会も多く(写真3・4)、就職活動の面接前に場数を踏んでいたおかげで、緊張しながらも自分らしく話すことで乗り越えられたことを思い出します。全ての経験が私の人生の糧となり、今に繋がっています。

現在、福岡市を中心として九州を盛り上げるためのイベント実施、地域特性を生かした企画立案、街が抱える課題解決に向けた取り組みといった新聞という媒体を活かして、街づくりの一助となる仕事に携わっています。学生時代に幅広い分野で経験を積むことができたからこそ、今も視野・思考を狭めることなく、仕事に取り組んでいると感じます。これまでは福岡都市圏を中心とした仕事がメインでしたが、2022年夏からは縁あって北九州エリアも担当になりました。自身の礎を築いた北九州の地に恩返しができるように、より一層仕事に邁進したいと思います。



《写真3》



《写真4》

## マスメディアに見る地域連携室 2022 年度の歩み

### ～地域連携室の足跡～

2022 年 3 月 12 日（土）毎日新聞 朝刊

『門司港拠点の新観光船活用法 「西南女学院大生が提案」結婚式場化や月替わりイベント』

2022 年度 6 月 4 日（土）毎日新聞 朝刊

西南女学院大「絵本を通して子育てに親しんで」

2022 年 6 月 15 日（水）朝日新聞 朝刊

「中高生のための絵本音読講座」

2022 年 11 月 15 日（火）北九州ノコト（WEB メディア）

大学生考案「ぬか炊きバーガー」

発酵食品魅力発信「発酵 JAPAN2022」11 月 19 日・20 日開催

2022 年 11 月 21 日（月）情報ワイド記者のチカラ（TNC テレビ西日本）

「異色コラボ TGC × 伝統のぬか炊き」3 年ぶり開催で“新商品も”

2022 年 12 月 19 日（月）毎日新聞 朝刊

「真冬の夜の夢」出発進行

小倉商業高校&西南女学院大プロデュース

2023 年 1 月 27 日（金）西日本新聞 朝刊

ご当地レトルトカレー開発 行橋市椿市

地元の野菜使い、学生デザイン市の返礼品に加わる

（2023 年 2 月～2024 年 1 月末現在）

# 2022年度 地域活動論叢

2023年3月10日発行

編集発行 西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部  
地 域 連 携 室  
〒803-0835 北九州市小倉北区井堀1丁目3番5号  
電話 093 (583) 5243

印 刷 モリプリンティング株式会社  
〒806-0049 北九州市八幡西区穴生3丁目11番5号





西南女学院は 2022 年に創立 100 周年を迎えました。

地域貢献活動キャッチコピー

「とどけ！ぬくもり 要（かなめ）から」



西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部 地域連携室

〒803-0835 北九州市小倉北区井堀 1-3-5  
chiiki@seinan-jo.ac.jp



地域連携室ブログ